JISK
(司法手続き仲介者スターターキット)

モジュール6

ニーズのアセスメントと報告

www.justiceintermediary.org

はじめに

推奨した事項が真摯に受け止められるためには、JIが信用されることが必須です。JIは当事者のコミュニケーションのプロフィールの直接の情報を持っています。それによって証拠に基づいたいた具体的な推奨をすることができます。また、配慮の提供に対するあらゆる反対に立ち向かうことが可能になります。

すべての国の司法制度は、配慮を決める際、すでにある利用可能な資源から提供することになります。このモジュールでは、コミュニケーションのニーズと適応を評価し、報告するためのアイデアを提供します。これはその国が提供できるサービスに応じて、変更することができます。

どのようにして評価を行いますか？

評価にはさまざまな形態があります。どの形態の評価を行うにしても、当事者の同意を得なければなりません。なお当事者は、これまで他のアセスメント（検査）を経験している可能性があります。とくに、知能検査や発達検査などフォーマルなものが多いでしょう。したがって同様の検査を予期しているかもしれません。一方、JIがそうしたフォーマルな検査を実施するケースはほとんどありません。

JIは、それぞれ独自の評価スタイルを確立します。ある人は、より正式なパターンと構造で行うかもしれません。別の人は話をしながら、評価の主要な分野をカバーする方向に会話をもっていくかもしれません。このようなバリエーションは、JIの職業や経験に基づく場合が多いですが、その当事者のニーズに基づく場合もあります。

障害者に面談の目的を説明することが重要です。面談の目的は、訴訟について話し合うことではないことを明確にする必要があります。報告書を作成する際は、障害者に同意を取り、報告書のコピーを渡す必要があります。

同意

プロセスの各段階で当事者と同意を求めて話し合うことが重要です。当事者は、どの段階でも、同意するかしないかを選ぶことができます。以下のすべての段階において同意を得ることを考慮してください。

- JIへ照会するとき
- JIが専門家の報告または介護者/家族からの情報の利用を要求したとき
- JIが評価会議を手配するとき
- JIが配慮の提案をするとき

当事者に面談の目的を説明することが重要です。面談の目的は、訴訟について話し合うことではないことを明確にする必要があります。報告書を作成する際は、当事者に同意を取り、報告書のコピーを渡す必要があります。

当事者に会う前に

同意を得て、利用可能な文書を収集し、評価の背景に関する情報を提供する必要があります。たとえば：

- 医療記録
- どのような学校に行ったか

これらは、警察の捜査官や弁護士によって保持されていることもあれば、学校/医師への申請が必要となる場合があります。

JIは、その人のケアや治療を支援することに関与する家族や専門家のサービスと連絡を取る必要があります。たとえば：

- ソーシャルワーカー
- 精神科看護師
- 教師
- ケアサービス
- 家族/パートナーなど（もちろん、これは事件の種類と証拠との関係によります）。

JIは、自らの役割とこの情報が必要な理由を説明し、この情報が事件の証拠として使用されないということ、またその一方で、それが司法へのアクセスの公平性と平等を確保するのに役立つということを明確に伝える必要があります。

評価の際の環境

評価の環境は、訴訟の段階と当事者の状況によって異なります。容疑者が拘留されている場合は、他の人びとから離れた場所にある別の静かな部屋で当人に会えるよう手配します。

当人が原告または証人である場合、自宅またはなじみのある場所で評価を行うと安心できるかもしれません。友人や家族が同席を希望するかもしれません。その場合、同席者には、答えを中断したり口をはさむことはできないことを予め承諾してもらいます。彼らがそうするのは難しいかもしれません。むしろ外で待っておいてもらい、最後に何か聞きたいことがあれば聞いてもらうぐらいがよいかもしれません。その人が保釈中の被告である場合、弁護士事務所や面接室などの正式な環境は、被告が不慣れな環境でどのようにコミュニケーションをとるのかについて、よりよい指標を提供してくれるかもしれません。

部屋の中の人の数、座席の位置、時間帯はすべてコミュニケーションに影響を与える可能性があります。たとえば、いつも正午まで寝ている人に午前9時の評価を受けるよう求めると、その人が裁判が行われる時間帯にどのようにコミュニケーションが取れるかを知ることができます。1対1でうまくコミュニケーションをとっている人でも、3人の警官が部屋にいるときや、込み合った大法廷にいるときは、まったく異なる反応を示す可能性があります。これらの側面は評価を計画する際に考慮する必要があります。

誰が出席する必要がありますか？

J JIが当事者と関わるときは、常に公平性と中立性を維持すること、これが最も重要です。

ＪＩが評価のために当事者に会う際は、訴訟の詳細に言及しないようにします。国によっては、警察官が、証人/原告のすべての評価に立ち会うことが義務付けられている場合もあります。それにより、事件の話が出たときや、当事者が新たな事実を開示したとき警察官が適切に対応することができます。一方、その場にJIのみしかいない場合、仲介人の仕事の範囲を超えるべきでないことから、対応が困難になる場合があります。

アセスメントに誰が立ち会うか、それは国の法制度によって違うので、JIの中立性を損なうことのないような手続きの合意が必要です。

ラポールの形成

JIが初対面で当事者とのラポールを形成することは必須です。そのことが、当事者が評価中に不安を感じることなく、より効果的なコミュニケーションをとることにつながり、その後の司法手続きに参加できるための基礎を築くことになります。

この関係を確立するのは難しい場合があるので、複数のセッションが必要になるでしょう。たとえば、相手が幼い子なら、一緒におもちゃで遊ぶ機会を設けることで、また、相手が大人なら、一緒にペットや地元のサッカーチームについて雑談する機会を設けることで、親密な関係を促進することができます。

評価の目的

評価の目的は、司法手続きへの関与という文脈の中で、障害者のニーズを特定することです。

評価のすべての側面はこの目的を満たし、常にこの目的に限定されている必要があります。評価の目的は、治療法や治療計画についての情報を与えることではありません。

その目的は、雇用や教育などの日常生活における障害者のニーズを理解することではありません。

その目的は、当事者が望む裁判の結果を助けることではありません。

評価の目的は、必要な配慮を特定し、司法制度への効果的な参加を可能にすることにあります。

JIがその場で得た情報の価値を判断する基準は、当事者の司法手続きへの参加に対してどう影響を及ぼすかという観点です。

JIは、自分の役割の境界を常に意識する必要があります。公平かつ効果的な司法手続きを実行するための情報を収集することが目的です。その範囲を超えて必要以上の情報は求めないようにします。

しかし、彼らの生活のいろいろな側面について話し合うことで、正式なテストではないもの、彼らのコミュニケーションスキルに関する洞察が得られるかもしれません。
たとえば、テレビ番組について聞くことで、当事者が内容を人に話す能力、思い出す能力、識字レベルに関する詳細情報がわかる場合があります。

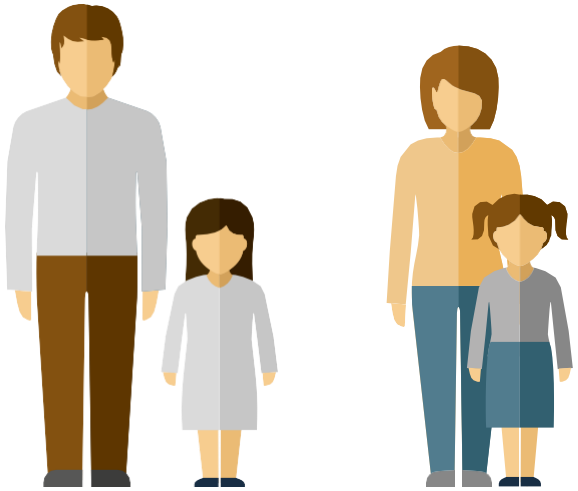
JIは…を知る必要がありますか？

- 評価を受ける当人と同居する人びとの名前は？
- 当人が結婚した年は？
- 当人の自宅の住所は？
- 当人の職歴は？
- 当事者の介護人の名前と、当事者の生活において重要な人の名前は？
- 当人の投薬計画は？
- 当人の法制度についての理解は？
- 当人の好きなテレビ番組
- 当人はどのように一日を過ごしますか？
- 当人の学歴は？

そのような質問をすることで、コミュニケーションに関する情報をどのように得ることができますか？

- 評価対象者と一緒に住んでいる人びとの名前、評価対象者の介護人の名前、評価対象者の生活において重要な他の人の名前—これらは、名前を言う能力や、時間と場所の方向感覚に関する情報を提供し、どのような感情面のサポートが利用できるかを知る上で役立つでしょう。
- 当事者の職歴は、コミュニケーションの能力の情報を提供します。また職種により識字レベルについてもわかる場合があります。
- 法制度、法用語についての当人の理解度から、当人がどれだけ説明を必要とするか、法的手続きをどれほど効果的に理解できるかについて、JIが知ることができます。
- 当人お気に入りのテレビ番組は、会話を当人の興味がある方向に向けるのに役立ちます。また、当人が、番組のストーリーや、好き/嫌いの理由、ストーリーの順番を語ることのできるかどうかも役立つでしょう。
- 当人の投薬計画から、当人の診断と症状、時間帯が当人のコミュニケーションに違いをもたらすかどうか、当人が法廷の日に投薬を必要とするかどうか、副作用、投薬がどれほど効果的であると信じているか、最近の変化などが分かります。
- 当人が一日をどのように過ごすか—一日の過ごし方に計画があるか、起きる時間を決めているか、早起きが裁判への関与に影響するか、手紙を読んだり、請求書を支払ったりといった日常生活においてどの程度の支援が必要か、これらの点に関する情報は、法的文書に関するコミュニケーション支援の必要性について示唆します。
- どのような学校に行ったか、支援がついたか、得意科目は何だったか等の情報により、新規の情報処理のためにどんな支援が必要かがわかります。

評価は、当時者の役割や訴訟の段階によって異なる可能性があります。たとえば、証人、原告、容疑者が警察に自らの経験について話している場合、または告発に対して応答している場合、被告や親権訴訟の母親とは異なる、一連のコミュニケーションスキルが必要になります。
そのような場合、彼らの裁判への関与の大半は、訴訟手続きを聞いて理解することにあります。



聴取の段階にある障害者に関して評価を検討する必要のある領域は以下のとおりです。

- 現地の法律に基づいた法的権利の理解、たとえば真実を語ること、いつ抗弁するかなど
- 面談の相手または質問者の役割を知る
- 聴取がどのように使用されるかを知る
- 複雑な質問を理解する
- 誤りに対して反対または異議を唱える能力
- 口頭での処理と作業記憶
- 出来事を語るスキル
- 時間、距離、場所、順序の理解
- 感情面の制御と戦略
- 注意と集中
- 薬とその影響
- 支援制度
- 身体のプライベートな部分を表す語彙
- 「証拠」、「陳述」、「同意」などの法的手続きで使用されるキーワードを理解し、使用する能力。

以下は、障害のある人が、例えば子供の親権訴訟の被告や母親として、あるいは民事裁判の審理に参加する場合に、評価が必要となる可能性がある分野です。

- 裁判官、陪審員、弁護士などの主要な法的役割を理解する
- 結果を含む自分のケースに関連する基本的な法的プロセスを理解する
- 複雑な語彙を理解する
- 基本的な法的用語を理解する
- 複雑な質問を理解する
- 誤りを指摘し、異議を唱えることができる
- 言語処理とワーキングメモリ
- 叙述能力
- 時間、距離、場所、順序の理解
- 感情のコントロールと方略
- 注意力、集中力
- 睡眠パターンや疲労など、法的手続きの必要性に関連する健康状態
- 薬物療法とその影響
- ストレス対処と理解不足のために、既に確立された方略

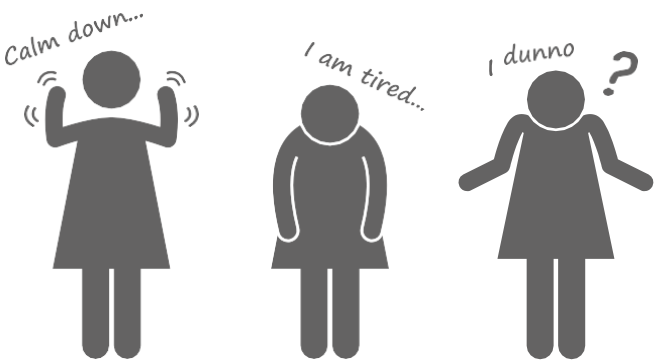
幼児または幼児同等の精神年齢の人を扱う際に評価すべきいくつかの追加領域は以下のとおりです：

- 簡単な絵を用いた身体の部位の語彙
- 上、下、間、後ろ、上などの位置語の理解と使用
- ストーリーを正しい順序で並べる能力
- 色、形などの詳細を伝える能力
- 権威ある大人に迎合する度合い

評価のための視覚補助の使用

JIが、評価に使用する資料を利用したり収集したりするのに役立ちます。**モジュール 11 「参考資料」**では、評価の補助となるものや資料に言及しています。こうした補助・資料は、地域の制度や文化に合わせる必要があります。たとえば、資料には以下のものが含まれます：

- 感情を表す絵
- 人体図と部位を動かすことができる模型
- 法廷の写真
- 「*休憩が必要です*」、「*わかりません*」、「*理解できません*」などの合図
- 予定表



これらの視覚補助を用いれば、証言する人に対して、答えるのに十分時間をかけるよう促したり、休憩が必要ならその旨を示すよう促したりすることができます。

質問に答えるためのルール

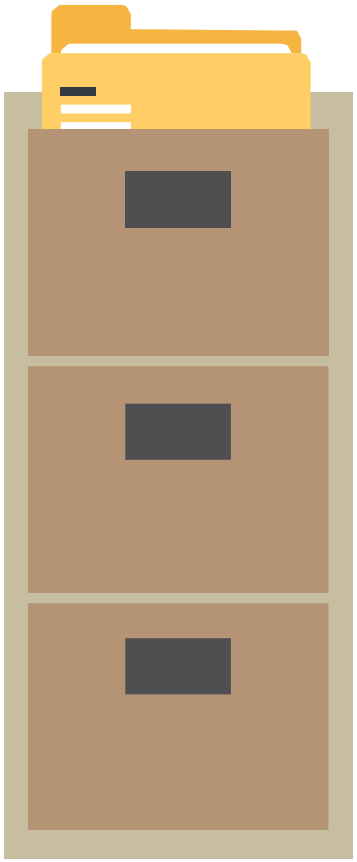
質問を注意深く聞いてください。

質問について考えてください。

ゆっくり時間を取ってください。質問に答えてください。

休憩が必要です

評価を記録する情報



多くの場合、メモを取ることが可能です。
評価中これらは、フォローアップ報告書に情報を提供し、推奨事項がどのようにして決定されたのかについての証拠を提示するという点で重要です。

ただし、場合によっては、評価を音声またはビデオで記録することが必要および/または有益な場合があります。たとえば、幼児や非言語的コミュニケーションしかしない人の場合、メモを取るのは現実的ではないかもしれません。

音声録音やビデオ録画に対する同意は、当事者、または幼児の場合は責任ある大人から取得する必要があります。（同意は書面または音声/ビデオで行うことができます）

聴取する警察官がJI評価中に立ち会うことは有益です。刑事事件について話しているとき以外の当事者を観察することで、警察官は、JIの推奨事項が観察をもとにしてどのように形成されるか、あるいはどのようにすればコミュニケーションが最も効果的であるかについて理解することができます。JIのコミュニケーションの変化が、当事者のより効果的なコミュニケーション（理解と表現の両方）にどのようにつながるかを観察する良い機会かもしれません。

記録管理

評価ノート、報告書、計画を含むすべての情報は、安全かつ機密に保持する必要があります。地域の法律によっては、地域のデータ保護法に従ってJIを登録し、規制を順守するようにしなければならない場合があります。

少なくとも、JIは事件に関連する以下の情報を記録する必要があります。

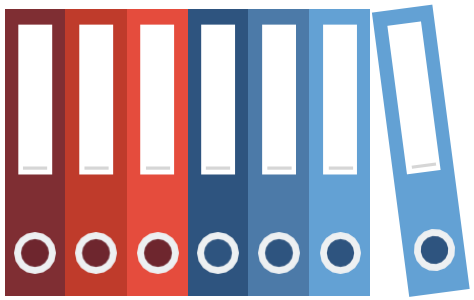
- 面談や電話の場所と時間
- 面談の参加者
- 当事者の同意
- 評価にもとづく所見
- 訴訟の主要人物

当人に記録のコピーを提供するのは良い実践です。

報告

JIは、おそらく2つの主要なタイプの報告書を作成する必要があります。

1. **容疑者、原告、または証人への聴取を計画している警察官（または検察官）の場合：**この報告書では、訴訟の開始時に開示と詳細な証拠を最大化することに焦点を当てます。助言は、評価から聴取までの間に、JIが対応できる時間によって口頭または書面で行うことができます。
2. **裁判官と双方の弁護人を含む法廷用、裁判が計画されている場合：** 報告書は、裁判所に出席する際、証人または被告が効果的に参加できるようにするために必要な配慮に焦点を当てます。



報告書

一部の国では、JIは広範な報告書を作成します。報告書が、裏付けとなる証拠を含む推奨事項のリストのみに限定される国もあります。書面による推奨事項の書式のない国もあります。

実践のための計画は、地域で利用可能な資源およびスキルの中で検討する必要があります。

報告書では以下の点が重要です：

- 専門的に表現されている
- 秘密が保持されている
- 中立性を保っている
- 観察結果の報告が正確である
- 役割の範囲外で診断または推奨していない。JIは専門家証人や弁護人ではありません。これについては、**モジュール 8「JIに必要なリジリエンスと守るべき境界線」**でさらに詳しく説明します。

報告書を作成する方法はさまざまですが、作成者、付託された権限、地域の文化、法制度によって異なります。以下の見出しを参考にしてください。

- 委託の時系列の流れと関与の日付
- 専門家の報告書/文書から得られた背景情報
- 面談の目的を当人が理解していること
- 病歴（該当する場合）
- 言語の理解
- 口頭表現
- 読み書きの能力
- 感情の制御
- 法的手続きの理解
- 非言語コミュニケーション
- JIの関与についての意見
- 推奨事項と配慮
- JIの役割

報告書に含まれる情報の詳細は次のとおりです。

- **背景** –いつどこで評価されたのか、誰が出席したのか、面談の長さ、時間通りに出席したか、交通機関の問題
- 専門家の報告、家族、友人、学校、職場、弁護士などの**他の情報源からの情報**
- **診断　—**　確立と提案、投薬、副作用、法的手続きへの影響
- 雇用、教育の経験、日常生活における自立などの**現状**
- **集中力と注意力.—.**どのくらいの期間、何が役立つか、アイコンタクト、これに対する洞察、疲れの兆候
- **言語の理解** —.般的な語彙、法廷の語彙
- 関連する法的手続きの理解
- **表現能力—**非言語的/言語的、物語、順序、詳細
- **感情のコントロール—**セッション中に、怒りの爆発、変動する気分、幻聴、幻覚などの報告された問題、洞察、メンタルヘルスを管理するために既に使用されている戦略
- **読み書きの能力—**読解力、状況に応じたライティング力
- **計算能力—**事件に関係ある場合
- **時間の概念**、場所の概念、方向性、出来事の起こった時期、出来事の経過の報告
- **誤りに対して異議申し立てる力**、質問をする
- **推論と論理—**意思決定と推測
- **信頼性と被暗示性**（これらは評価するJIの権限の範囲外である可能性があります。専門家の経歴によって異なりますが、専門家証人報告書から情報を入手できる場合があります）。

情報
JIとJIスキームについて

報告書の中で、JIの資格や経験、専門分野などがわかるようにすることで、読む人の助けになります。

報告書を読む人のうち、初めてJIスキームについて知ることになる人のために、JIサービスの背景を報告書に含める必要があります。

JIの中立性

JIが中立性を維持する必要性が、JISK全体で強調されてきました。報告書では、人から聞いたことと自分のコメントがわかるようにしなければなりません。

報告書で用いるのに適した表現には以下のようなものがあります。

「その男性は、弁護士からの手紙を読むのに苦労していると報告した。」

「評価では、子どもはアナログ時計の文字面で12時を認識できなかった。」

「証人は「どこに住んでいますか？」などの簡単な質問の多くに対して混乱していたようだった」

「面談の間、その男性は現在の自分の雇用状況に関連する誤りに異議を唱えることができなかった。」

「その男性は学校でいじめられたと報告した。」

次は報告書としてふさわしくない表現の例と、それらがJI報告書の権限に適合しない理由です。

「被告は犯罪を行うのに十分な知性を持っていないので、犯行を犯した可能性は低い。」

これは事件について中立的ではありません。JIの権限外です。

「容疑者は私にそれをしたと言ったが、彼は自分が何を言っているのか理解していなかったと私は信じている。」

これは事件についての意見であり、弁護士との話し合いの中で取り上げるべき問題です。

「原告は父親と問題を抱えているので、真実を語る可能性は低い」。

上の例は事件に関連していますが、JIの役割は真偽についてコメントすることではありません。

「私が被告に、裁判のことについて話すつもりはないと言ったにもかかわらず、被告は罪状を否定し続けた。」

これは事件に関連しているため、報告する必要はありません。

「彼は学校でいじめられた。」

これは、JIが彼がいじめられているのを見たか、主張を裏付ける証拠があることを示しています。以下のように言うのが適切です。

「男性は学校でいじめられたと報告した。」

報告書作成のこの領域は、採用されたJIの専門的背景に応じて、トレーニングと明確なガイドラインが必要となります。

報告書の推奨事項

JIの報告書は、法的手続きの変更を伴う配慮を提案することがしばしばあります。これらの提案は、法律実務家と司法に対して、長年の伝統を変えるよう要求する場合もあります。彼らの合意と了承を得るために、JIは配慮の必要性を裏づける証拠を提供することが重要となってきます。以下に、4つの提案の例と、それらを裏づける証拠を示します。

推奨事項1

目撃者のためのスクリーン使用の推奨は、被告への恐れについて語る目撃者の証言や、不安管理を目的として目撃者に処方された投薬の証拠、および/またはパニック発作の報告、感情的な話題について話す際、目撃者にみられるコミュニケーションの減少の報告などによって裏づけることができます。

推奨事項2

語彙の単純化の推奨は、評価の中で発見された、クライアントが理解しなかった、または誤解した単語の例によって裏づけられます。

推奨事項3

スケジュールに関連する質問を避けるべきであるという推奨は、クライアントが評価中に時間の感覚を持っていなかったことや、面接に着くまでにどれぐらいの時間がかかったか説明できないこと、自分の年齢や自分が刑務所にいた時間を知らないことなどによって、裏づけられます。

推奨事項4

クライアントの証言中に法廷を静かに保つことの推奨は、クライアントが評価中に、突然の騒音に対して示したネガティブな反応や、注意散漫の程度を説明することによって裏付けられます。一部の国では、JIの報告書の書き方を詳述するガイドラインが存在します。以下は、イングランドとウェールズの手続きマニュアル（登録仲介者のための司法省手続きガイダンス2019年8月版）に基づいており、一般的ではない地方の司法手続きを除外するよう編集されています。これはほんの一例であり、他のJIスキームの詳細は、**モジュール 9「世界中で」** および**モジュール 11 「資料」**で確認できます。

これは、同じ情報源からのJI報告書の紹介部分の例です。

「私は以下のことを求められました：

1. 証人が証言の能力を持っているかどうか、もしそうなら、それはどの程度の能力かを示すこと
2. 仲介人の利用によって証言の質（完全性、一貫性、正確性）が向上するか示すこと
3. 証人に質問を伝える最も効果的な方法について弁護人に助言すること
4. 目撃者との最良のコミュニケーションを可能にするための特別措置やその他の調整に関する推奨事項を作成すること

「仲介人としての私の役割は、証人とのコミュニケーションや、証人と他の人とのコミュニケーションを援助することです。私は専門家証人として訓練を受けていません。この場合、私には、証人による事実の記憶の正確性について意見を述べることはできません。また、証人が証言するにあたって真実を語っているかどうかについて意見を述べることもできません。私の役割は、裁判前および証人による証言の際にコミュニケーションを促進し、彼らが『最良の証言ができるよう援助する方法』の助言のみに限定されています。」

まとめ

評価と報告の形式や手順は、その国のニーズ、利用可能なサービス、司法手続きにより大きく異なる可能性がある。ただし、以下のJIの役割の指針となる原則の重要事項は共通する。

- 中立性
- プロ意識
- 役割の境界の理解
- 透明性
- 障害者の効果的な参加を目指す
- 評価の範囲を、裁判所とのやり取りに関連するものだけに限定する
- 事件の詳細に対処することなく評価する
- 事件の詳細ではなく、コミュニケーションのニーズと対応について報告する
- 配慮の認可に関する最終決定権は裁判所にある

考察ツール：モジュール6

ここでユーザーの皆さんには、モジュールの内容を振り返っていただきます。また、私たちがコンテンツの改善と更新を継続的に行う手助けをしてもらえれば幸いです。

それでは、あなたの考察を共有するために、ここをクリックしてください。

JI候補者は、評価および報告の役割においてどのような経験をすることになりますか？

彼らはこれまでの経験をどのように適応させる必要がありますか？

スキームは、新たに採用されたJIにどのような資料を提供する必要がありますか？

次ページに続く…

あなたの国で障害者の同意はどのように法制化されていますか？

どのローカルデータ保護法を考慮する必要がありますか？

あなたのスキームでは、評価と報告はどのように監視されますか？

あなたの地元のリソースを考慮して、どのレベルの評価と報告が実行可能ですか？